全国学校・園庭

ビオトープコンクール 2021

募集要項

ビオトープに取り組む
学校・園を大募集！

6/30(水)
しめきり

公益財団法人
日本生態系協会

応募のしかた 郵送でもメールでも

BIOは生きもの、TOPは空間の意。BIOTOP（ビオトープ）は、野生の生きものが生息する場所・空間のことを言います。

森や林、草はら、池、小川、浜辺など、身近な自然の中には本来、いろいろなタイプのビオトープがあります。こうしたいろいろなビオトープが豊かな自然をかたちづくり、私たちの健全な生活のいしずえとなります。ところが、目先の経済や効率など大人の都合を優先したまちづくりが行われた結果、自然のビオトープは徐々に姿を消してしまいました。

しかし、子どもたちの健全な成長には自然とのふれあいが必要です。そこで、日常的に自然とふれあえるよう、地域の自然をお手本にして校庭や園庭につくられるようになったものが、「学校ビオトープ」や「園庭ビオトープ」です。

1999年から隔年で実施しているこのコンクールも、今回で12回目（23年）となります。ビオトープに取り組む学校・園のみなさま、ぜひご応募ください。

☆　☆　☆

コンクールへの応募は、これまでかんばってきたことをふりかえる機会になります。

また、子どもたちがビオトープの良さを見直す、保護者や地域の方々にさらに関心をもっていただく、ビオトープ管理士などの専門家とのつながりを増やす…などのきっかけにもなります。

① 記入済みの 応募用紙
② ビオトープのようすが分かる カラー写真
③ 活動のようすが分かる 資料

・応募にあたっては、上の3つのものを係あてにお送りください。郵送・メールどちらでも構いません。

・「①応募用紙」は、コンクールのホームページでダウンロードできます。

ホームページ　www.biotopcon.org
「ビオトープ コンクール」で検索

・「②ビオトープのようすが分かるカラー写真」は、適度に圧縮し、3～5枚お送りください（JPEG）。

・「③活動のようすが分かる資料」は、既存のもので構いません。

・なお、お送りいただいた上記の書類は、お返しすることができません。予めご了承ください。

「②ビオトープのようすが分かるカラー写真」は
以下のものをお送りください

②のカラー写真は、「ビオトープ自体がどのようなものなのか」を確認するためのものです。
子どもたちの活動やイベントなどのようす、生きものの写真などについては、「③活動のようすが分かる資料」に含めてください。

審査対象は、すべての学校ビオトープに取り組む学校、園庭ビオトープに取り組む園です。

・教育や保育が行われる、いわゆる「学校」や「園」ならば、すべてが審査対象です。

認定こども園、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校…

・学校ビオトープや園庭ビオトープをつくり、活用を行っているならば、どのような事例もご応募いただけます。

・このコンクールは、ビオトープのおまつりです。いままでに受賞したことのある学校や園も、もちろんご応募ください。

これまでのコンクールでは
こんな学校や園が参加！

2021年 6/30(水) 消印・メール送信有効

・郵送の場合は6/30(水)の消印有効、メールの場合は30(水)24時送信のものまで受け付けます。遅れる場合は担当までご一報ください。

・応募は、学校・園単位でお願いします。(個人や支援団体などからの応募はできません)

書類の送り先

郵　送　〒171-0021
東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
(公財)日本生態系協会
全国学校・園庭ビオトープコンクール係
または
メール　biocon@ecosys.or.jp

お問い合わせ

☎ 03-5951-0244

応募方法には、この「自薦」のほか、学識経験者や専門家による「他薦」があります。
他薦でノミネートされた学校・園には、当協会からご連絡します。

応募後は随時、活動のようすが分かるものを、お送りいただくか、お知らせください。形式は自由、審査の参考にします。

印刷物、授業計画、写真、動画、Twitter、YouTube…

10/31(日) 消印・メール送信有効

審査観点

審査は、学校・園庭ビオトープを通じて環境教育や自然体験活動を進めていく際の“ポイント”を6つの観点に整理し、それをもとに行います。

・地域の自然をお手本とし、地域の生きものが暮らしやすいように工夫しているか。

・(特に小学生においては)取り組み全体を通じ、子どもたちが積極的に、主体的に関わっているか。

・取り組み全体を通じ、保護者や地域住民、環境NGO、行政機関、団体・企業などと継続的に連携をしているか。

・子どもたちの豊かな感性を育むために、学校・園庭ビオトープを積極的に活用しているか。また、様々な教科や特別活動で、広く教材として活用しているか。

・学校・園庭ビオトープを育成管理し、活用を継続するための、体制が整っているか。

・取り組みを地域に発展させ、ビオトープのネットワークや人のつながりを広げていく視点を持っているか。

賞と位置付け

賞は、「上位5賞」「協会賞」「奨励賞」の3つに大別されています。

上位5賞

学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる優れた取り組みを行うものを表彰し、これを広く紹介します。そのなかでも特に際立って秀でていると評された特徴をもとに、右の5つの賞が決定されます。

日本生態系協会賞

「上位5賞」の候補となり得る優れた取り組みを行うものを表彰し、これを広く紹介します。

学校・園庭ビオトープ奨励賞

優れた取り組みを行うものを讃え表彰します。

上位5賞の位置付けには優劣はなく、また、発達段階の枠にとらわれるものでもありません。

文部科学大臣賞

実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に体験活動や学習活動の内容・成果が秀でているものを表彰し、これを広く紹介します。

環境大臣賞

実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に野生の生きもののすむ「ビオトープ」の質が秀でているものを表彰し、これを広く紹介します。

国土交通大臣賞

実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に人と自然が共存するまちづくりに繋がる点が秀でているものを表彰し、これを広く紹介します。

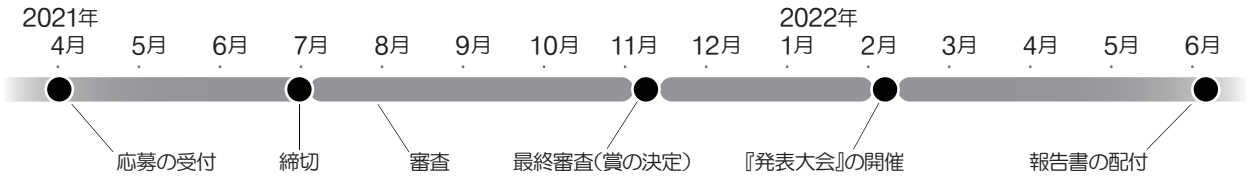
ドイツ大使館賞

実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、園庭ビオトープを題材にユニークな体験・学習活動を行っているものを表彰し、これを広く紹介します。

日本生態系協会会長賞

実践モデルとなる優れた取り組みを行うもののうち、特に地域とのパートナーシップの観点で秀でているものを表彰し、これを広く紹介します。

スケジュール



応募の受付

・6/30(水)の消印・メール送信有効で受け付けます。(3ページ参照)

・応募後は随時、活動のようすが分かるものを、お送りいただくか、お知らせください。形式は自由、審査の参考にします。(10/30(日)まで受付)

審査

・書類をもとに、「審査観点」に沿って審査を行います。

・審査の過程で、電話での質問や追加資料提出のお願い、訪問などによる補足調査※を、必要に応じて行います。(応募者全てではありません)

賞の決定

・11月に予定される「中央審査委員会」を経て、大臣賞などの上位5賞をはじめ各賞が決定されます。

・結果は各校・園に個別に通知されるほか、公式サイトや報道機関などを通じて広くお知らせします。

発表大会

・コンクール2021の締めくくりとして『発表大会』を開催します。

報告書の配付

・学校・園庭ビオトープを普及するためのさまざまな活動のひとつとして、学校・園庭ビオトープの実践モデルの概要や取り組みのポイントをまとめた「報告書」を作成し、2022年6月より無償配付します。(予定)

※ 補足調査は、生態学や環境教育に明るい学識経験者、ビオトープ管理士などの専門家により行われます。

全国学校・園庭ビオトープコンクール2021
発表大会

日付　2022年1/23日
会場　都内
内容　表彰式
上位5賞の受賞校・受賞園による事例の発表
学校・園、団体・企業などによるポスター発表

前回は秋篠宮皇嗣殿下にも御臨席いただいた発表大会。
上位5賞の受賞校・受賞園による「実践事例の発表」のほか、受賞校・受賞園、学校・園庭ビオトープの取り組み支援を行う企業、ビオトープを守り再生する団体も交えた「ポスター発表」もあわせて行います。

＊ 日付や会場、内容は、事情により変更される場合があります。

コンクール2019の発表大会(上)と、関連イベントのポスター発表大会「みんなのビオトープ展」(下)のようす。

参考

ビオトープのコツ

自然のものと自然ではないものをきちんと区別しましょう。

「自然のもの」の例 ※

シジュウカラ、 ツバメ、
アマガエル、 ニホントカゲ、
アゲハチョウ、 ヤマトシジミ、
カブトムシ、 ナナホシテントウ、
アブラゼミ、 エンマコオロギ、
オオカマキリ、 オンブバッタ、
シオカラトンボ、ドジョウ、メダカ、
ホトケノザ、 スギナ(つくし)、
スミレ、 カタバミ、 ガマズミ、
エノコログサ、ススキ、ヤマハギ、
フジバカマ、アケビ、カラスウリ、
ヤマザクラ、コナラ、 エゴノキ
…など、
もともと地域に生活しているさまざまな野生の生きもの

「自然ではないもの」の例

飼育・愛玩動物

にわとり、チャボ、
あひる、 あいがも、
インコ、 ぶんちょう、
ハムスター、
モルモット、
フェレット、
いえうさぎ、
犬、猫、
馬、牛、ひつじ、やぎ、
金魚、錦鯉、
ヒメダカ
…など

園芸種、農作物

コスモス、ひまわり、
チューリップ、パンジー、
あさがお、おしろいばな、
稲(米)、大根、人参、
ねぎ、ゴーヤ、ピーマン、
トマト、ミニトマト、
キャベツ、とうもろこし、
じゃがいも、さつまいも、
かぼちゃ、いちご、
さくらんぼ、みかん、
ブルーベリー、
桜(ソメイヨシノ)、
芝生 …など

外来種

アメリカザリガニ
ウシガエル
外国産のクワガタムシ
アライグマ
ブラックバス
ブルーギル
ゲンゲ(レンゲ)
シロツメクサ
セイタカアワダチソウ
オオキンケイギク
キショウブ
クレソン
ホテイアオイ
シダレヤナギ …など

＊ この「自然のもの」の例は、主に関東地方の平野部を基準としたものです。日本の自然は実に多様で、同じ種であっても地域によっては「自然ではないもの」になってしまう場合がありますので、まずはご自身の住む地域の自然について調べてみましょう。

「自然のもの」とは、「在来種」のこと

「自然のもの」とは、遠い昔からその土地で生活している野生の生きもの、在来種と呼ばれているものです。

ですから、人の手で作り出して育てている花壇の園芸種や、田畑の農作物、ペット、家畜・家禽、海外から進入してきた外来種、たとえ国内であっても離れた土地から持ってきた移入種などは、「自然のもの」ではありません。

地域の自然は、世界に二つとない

自然は、その地域ならではの気候や地形、土壌や水の質、日光の具合などの条件と、それに適した野生の生きものたちで成り立っています。

地域の自然はそこだけのオリジナルであり、全く同じものは世界中のどこにもありません。「自然のもの」と「自然ではないもの」の違いは、そこから生じたものなのです。

参考

学校・園庭ビオトープ チェックシート

ビオトープについて

- ☐ 生物多様性を守るために、また、子どもたちの正しい自然観を培うために、自然のもの（在来種）と自然ではないもの（愛玩動物、農作物、園芸種、外来種）を区別している。
- ☐ （規模にかかわらず）目標とする野生の生きものの誘致や自然発生を目指して、課題を見いだしながら工夫している。

子どもの関わりについて

- ☐ （特に幼児教育や保育の場合）自然とのふれあいをきっかけとして、遊びに発展性や他の活動への展開が見られる。
- ☐ 自然とのふれあいにとどまらず、野生の生きものの生育・生息しやすい環境づくりや、他の子どものビオトープへの関心を高める普及活動などへと発展している。

ビオトープの活用について

- ☐ 各学年、各教科等の教育課程に、ビオトープを通じた学習を系統立てて位置づけている。
- ☐ 子どもの気付きや探究する態度を培う工夫をしている。
- ☐ （幼児教育や保育の場合）園庭の自然の様子、園児の活動、そのときの援助の内容などを継続的に記録し、振り返り、次年度にいかしている。
- ☐ 体験活動や学習活動による子どもの成果物が蓄積され、授業の結果をいかしている。

保護者や地域の方々の関わりについて

- ☐ ビオトープのことを、子どもが地域の人々とともに働く場ととらえ、子どもが人々の想いや考えを体感する機会と位置づけている。
- ☐ 身近な人々と継続的に連携しながら、管理を行っている。

持続的な管理活用の体制づくりについて

- ☐ 教職員全員がビオトープを通じた教育に携わっている。
- ☐ 教員間、児童・生徒間で、ビオトープに関する活動の引継ぎが行われている。
- ☐ PTAや地域で、ビオトープの管理活用を支える体制が整っている。

地域への広がりについて

- ☐ ビオトープと地域の自然との比較がなされている。
- ☐ ビオトープが地域の自然につながっていることの必要性について、気付きを促している。
- ☐ 学校・園庭ビオトープの地域での普及、もしくは、自然との共存という考えの普及に貢献している。

このコンクールでは、学校ビオトープ・園庭ビオトープを通じた教育や保育を「6つの審査観点」（4 ページ参照）で評価しています。

それをもとにしたチェックシートで、取り組みを振り返ってみてください。

ver.100030032021

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

学校・園庭ビオトープが美しい日本と社会をつくる

今の日本には、山にも身近な場所にも、みどりはありますが、自然はわずかしかありません。そのような状況において、学校ビオトープや園庭ビオトープはとても重要な役割を担っています。

私たちの国は68％が森林に覆われていると言われていますが、実は自然の森は18％ほどしかありません。草はらや水辺などを加えても、自然の土地は20％程度。〝みどり〟はあっても〝自然〟は少ししかないのです。※1

また、殺虫剤や除草剤などの農薬や、ビオトープの喪失が原因で、世界中で昆虫が減っています。※2 日本も例外ではなく、そのうちチョウやトンボを一度も見たことのない人が現れてしまうかも知れません。

けれども、学校・園庭ビオトープをつくれば、自然が少しずつ増えていきます。そのビオトープ同士を自然でつないでいけば、地域の自然を守り、もっと増やすことができます。そして、ビオトープをめぐる取り組みは、人と人とを絆でつないでいきます。

学校・園庭ビオトープの活動は、SDGsを達成に導く近道です。美しい日本と世界をつくるために。

※1　会報『エコシステム』第166号（'19年11月号）参照
※2　ドイツ連邦政府『昆虫保護行動計画』日本語版参照（当協会のホームページにて公開）

公益財団法人
日本生態系協会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
Tel.03-5951-0244　Fax.03-5951-2974　www.ecosys.or.jp